

「2024 年度愛知県循環器病対策推進協議会」議事概要

議題（１）第２期愛知県循環器病対策推進計画の関連施策について

（事務局から資料１－１、１－２を説明。）

・室原会長（名古屋大学）

資料 1—1 にあるように愛知県は現時点で死亡率から見たら、全国平均よりはかなりよい方ではないかと思う。また、全体目標として３年以上の健康寿命の延伸と、循環器病の年齢調整死亡率の減少というのが大きな目標となっている。内容について質問等あればお願いしたい。

・井澤委員（藤田医科大学）

循環器病に関わる医療体制整備の推進のところで、救急搬送体制の整備、それから医療提供体制の整備、特にリハビリテーション、在宅療養のところで詳しく検討されていることが分かったが、高度医療とか、例えば心臓病で言うと、心臓移植とか補助人工心臓といったような高度医療に関する体制整備が抜けているように思ったがいかがか。

・室原会長（名古屋大学）

超重症患者さんの医療あるいはケアの御意見かと思うが、事務局いかがか。

・事務局

本計画にそこまで書き込むことが出来ていないという点は御指摘の通りである。急性期、高度医療の体制整備は、所管が異なるため御意見を共有して後日お返ししたい。

・室原会長（名古屋大学）

第２期計画の冊子の 30 ページの 10 行目に、高度救命救急医療機関とか循環器系領域における治療病院の定義など記載されている。確かに心臓移植や補助人工心臓などに踏み込んだ表記はない。施設がかなり限られているということで、今後どうするかをまた検討したい。

・宮地委員（愛知医科大学）

今の話で、本会議で特殊医療とか治療に特化したものを求めるというよりは、その前の予防とそれから初期治療の推進が推進協議会の趣旨ではないかと思うがいかがか。

・事務局

高度医療については別の会議体もあり、別の計画もある。宮地委員が言われたようなところがこの計画の中心となる。

・室原会長（名古屋大学）

資料1－2にある健康づくり応援カードの「まいか (MyCa)」は、結構普及しているものか。

・事務局

カードまたはアプリを利用し、「あいち健康マイレージ事業」として市町村に参加いただいている。利用者が自分で決めた食事をバランスよく食べるとか、ひとつ前の駅で降りるとか、運動などの目標を決め、達成状況の記録ができる。

紙媒体とアプリの二つがあり、紙媒体に関しては、全市町村に御協力いただいている。一定ポイント貯まると、「まいか (MyCa)」カードを発行して、ご協力いただいている県内協力店でカードを見せると、特典が受けられる。このように日々の健康づくりに使っていただいております。例えば、血圧の測定、健診に行った事を記録したり、アプリ版ではお知らせ機能を使って行政側から伝えたい事、各種啓発に関する記事などを掲載している。

・室原会長（名古屋大学）

そうするとこれは循環器病に関わらず、いろんな分野の生活習慣病に対する健康づくりとして使えて、結果として予防につながるものということか。誰でもアプリをダウンロードできるのか。

・事務局

居住している地域の市町村版と、企業版がある。企業版は企業として申し込み企業コードを発行することで従業員が登録できる形になっている。ダウンロード後にどちらかで登録できる。

・室原会長（名古屋大学）

資料1－2の6ページ、「ライフステージに応じた循環器病対策の推進、ア小児期・若年期」で、循環器病ではやはり小児期から成人になられた先天性疾患の方が多数おられるので、そういった点も推進していただきたい。

・事務局

特に先天性心疾患を中心に移行期医療に問題があるという指摘はこれまでも受けており、今回の第2期計画を作成したときにも記載に関する話もあったが、現状として具体的な記載は難しかった。

6ページの上から4段目「小児慢性特定疾病児等自立支援事業」において協議会を設置しており、長期療養をされているお子さんと御家族の支援について検討をしてきたが、今年度から、大人の難病の関係者にも協議会に入ってもらい、小児慢性特定

疾病と難病を合わせた形で協議の場をもつことにしている。今後そこでもこの課題について検討できればと思っている。

・森委員（愛知県薬剤師会）

資料1-2、7ページ目の一番下のACP、人生の最終段階における医療体制整備事業について、どの列も同じことが書かれているが、平成30年から令和2年度にかけて相談員を養成とある。

私は、地域で精力的にやられているACPの研修会に参加させていただくことも多くあり、その際にはがんセンターの先生が指導員となって御指導いただいている。基本的にこの資料1-2にある相談員養成というのは、対象は医師のみということか。

・事務局

対象の詳細*は今この場でお答えができないが、がんの分野でよくACPに取り組まれていることは承知している。循環器病に特化したACPという意味では、資料にある当時の研修会は病気に特化したものではなかったと思う。

・森委員（愛知県薬剤師会）

研修の指導員とかで、もし薬剤師にも対象が拡大したりするといろいろ活躍できるかと思う。

・事務局

リーダーを育成する研修だったと思うが、今後について関連する課とも相談して進めていきたい。

・小泉委員（愛知県看護協会）

資料1-2、5ページ一番の上の「訪問看護人材の育成」について。事業が違ってもいいかもしれないが、「訪問看護ステーション・医療機関に勤務する看護師の相互研修」は、看護協会の方で、今企画してやっている研修である。この研修は、循環器病対策推進計画に基づいた内容というか、特化したものではなく、訪問看護師の能力スキルアップのための研修である。このプログラムを企画する時に循環器病の在宅医療に関する内容を盛り込んで、事例を出したりとかしていく方がいいのかなと思いながら聞いていたがいかがか。看護協会で行っているのは一般的なアセスメント能力強化のための研修である。

・事務局

資料には、循環器疾患に関連する県の様々な事業を載せている。他課の所管事業であるので、担当課と相談し考えていきたい。

・小泉委員（愛知県看護協会）

看護協会では、外来看護師の能力向上研修があり、循環器病対策推進計画に基づいて、受診患者さんの悪化の早期発見、退院して初めて受診する患者さんへの対応など、外来の看護師や認定看護師が力を入れてもらっているようで、そこから訪問看護師にもっと繋げていけるといいかと思うので、企画の際に組み込むなど出来たらと思う。

・本多委員（健康保険組合連合会愛知連合会）

資料1-2、3ページ、特定健診実施率の向上を図り、対策として保健指導の実施率の向上については、賛同するところである。健診受診率を上げた後は、健診の結果をいかに対象者さんが理解して予防につなげていくかが大切だと理解している。

上から2段目に「国民健康保険の保険者である市町村が実施する糖尿病性腎症重症化予防の取組の推進」と記載があるが、糖尿病性腎症がいわゆる循環器病に関係がないとは言いきれないが、施策として循環器病疾患の予防に普及啓発をしていくところで、循環器疾患に対する知識の普及、予防の取組を推進というところが、他にもないのかと不自然に思った。虚血性心疾患とか脳血管疾患に対するような取組がないのかなと感じたので、教えていただきたい。

・室原会長（名古屋大学）

たしかに、糖尿病性腎症は循環器疾患ではハイリスクファクターであるが、事務局いかがか。

・事務局

予防のところで循環器疾患と関連する部分があるので、糖尿病性腎症に関する事業を記載している。

・室原会長（名古屋大学）

糖尿病性腎症の記載も残しつつ、他の高血圧とか脂質異常症などの記載も入れてそれらの予防の取組の推進とすればよいかと思う。

・宮地委員（愛知医科大学）

全く同じ意見で、ここで糖尿病性腎症だけどうして特化した記載となっているのか疑問に思う。

目標として主に健康寿命の延伸を促進することでいうと、脳血管疾患では脳卒中後遺症である。それによって認知とか、いろいろと行動障害を受けるため、それをどうしたらよいかを考えていくことが必要である。心臓に関しては、圧倒的に心不全だと思う。心不全によるフレイルなどの言葉が一つも出てこない。

これらをどうしていくかというところが、例えば資料1-2の5ページの「循環器病の療養に関する適切な情報提供と相談支援」を推進しているところで「高次脳機能

障害」はしっかり取り上げられているが、こういったところをもう少し大きな枠で対策していくというような記載がないため、偏っているように思える。

- ・室原会長（名古屋大学）

御指摘のとおりと思う。リスクのところではタバコはかなり独立して受動喫煙対策の記載がある。コレステロールなども糖尿病性腎症対策の記載と同様に施策を盛り込んでいければと思う。また、後遺症やリハビリテーションにおいても関わるので、取組の記載を充実させていきたい。

- ・大塚委員（愛知県理学療法士会）

資料1-2、4ページの上から四段目。「リハビリテーション情報センター事業」が掲げられており、2021年度から内容が変わりなく記載されている状況であるが、やはり人材育成が必要ではないか。心不全療養指導士とか、心臓リハビリテーション指導士といった人材を育成していくことが必要である。

それに伴い、そういった人材が愛知県のどこに勤務して活動しているのかということなどの調査を理学療法士会で今検討しているので、情報として盛り込んでいただけるといいかと思う。

- ・室原会長（名古屋大学）

心不全療養指導士、心臓リハビリテーション指導士は、非常に今学会の方でも盛り上がってきて人数も増えてきているので、こういった方がどういう病院に配置されているかは重要な情報である。

議題（2）循環器病の予防に関する普及啓発について

（事務局から資料2-1、2-2を説明。）

- ・室原会長（名古屋大学）

資料2-2は今日内容を決めてしまうということか。

- ・事務局

今日御意見をいただき、それを修正する。後日、意見照会も併せて実施したい。

- ・宮地委員（愛知医科大学）

3つ気になったところがある。4ページの絵、これは左から見ていくと右のようになっていくと1回血管が破けるという話になっておかしいと思う。動脈瘤等で破れるのはこれでいいが、詰まる機序はちがう。血管が破れなくても詰まるので、これは誤解を招くと思う。詰まる側と、出血する側と絵を2つに分けるなどしないと、脳卒中

のイメージが誤解されるのではないか。

それからもう一つは、5 ページのところでは腎臓が出てくるが、そのこれは循環器の先生にお聞きした方がいいと思うが、もう腎性高血圧だけじゃないと思う。これだと腎臓が良ければ絶対大丈夫だというふうに、また誤解されてしまう。

7 ページの「3 メッツ」と書いてあるメッツとは何の単位か。

・ 室原会長（名古屋大学）

確かにわかりやすくするべき。プラークも書かれていないが、4 ページの絵は何を参考にしたものか。

・ 事務局

資料 2-2 の各絵はイメージ図を載せており、どういった絵を載せていくとよいかということも皆様から御教示いただけたらと思う。4 ページの絵はアスタリスク 6、9 ページに記載しているところから引用している。今の御意見を参考にパターンを分けて詳細に記載できるとよいと思う。

挿入する絵のデザインについては事業者とも相談をしながら作成していく。

・ 室原会長（名古屋大学）

医学的な部分は各分野の委員の方に確認してもらいながら作成をお願いする。あと作成が 1 万部予定と書いてあるが、今、日本で高血圧の人は 4300 万人いて、3 分の 1 が高血圧、愛知県だと 250 万人ぐらいいらっしゃるの、普及啓発としては例えば県のホームページからダウンロードできるようにするなどいかがか。

・ 事務局

県の Web ページに「循環器病対策」のページを設けており、今回のリーフレットについてもそこで公表して、データを取得できるようにする予定である。

・ 室原会長（名古屋大学）

今日の資料 2-2 はたたき台として仮のイメージということで、今後また御意見をいろいろいただいて作成していければと思う。

その他

・ 室原会長（名古屋大学）

あらかじめ愛知県理学療法士会の大塚委員から、リハビリに関する情報提供があると伺っているので、聞かせていただきたい。

・ 大塚委員（愛知県理学療法士会）

愛知県循環器病対策推進計画が3月に公表され、まだ結果は出ていないが愛知県理学療法士会では愛知県でのリハビリテーション実施状況に関して調査を始めている。

特に回復リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟で心臓リハビリテーションの実施が愛知県でどの程度行われているか。また、先ほど申し上げた人材育成という面では、心不全療法指導士、また心臓リハビリテーション指導士の人材が愛知県の中でどのくらいいて、それがどの程度地域に拡散されているか等を調査しているので、ぜひこの協議会の中の先生方に情報を共有させていただければと思う。

・室原会長（名古屋大学）

日本心臓リハビリテーション学会の理事もされておられる井澤委員、いかがか。

・井澤委員（藤田医科大学）

心臓リハビリテーション学会では、心臓リハビリテーション指導士を各地で養成しているが、個人情報の問題があるため学会からはどこの施設に何人の心臓リハビリテーション指導士がいるか公表していないので、愛知県として把握することが難しいと思う。ただ、例えば人数が何人とかは、非常に重要なことで本来公表すべきことじゃないかと思うので、必要であれば学会の方とも考えていきたい。

・室原会長（名古屋大学）

御検討をよろしくお願いしたい。

・本多委員（健康保険組合連合会愛知連合会）

働く世代向けの研修をオンラインで企画されているお話があったかと思うが、ぜひ医療保険者向けにも御案内をいただきたい。企業と自治体の健康管理担当者向けに令和4年度から実施されているということだったが、医療保険者は、企業で働く被保険者とともに、被扶養の家族の方も地域で暮らしており、その被扶養者の方々の健康管理も担っている。医療保険者で働く保健師等も在籍しているので、こういった研修の機会を情報提供、横展開していただけるとありがたい。

・室原会長（名古屋大学）

そのあたりは広く、御案内するということをお願いする。

この協議会は今年度中また開かれるか。

・事務局

今年度は本日の1回のみである。次回はまた来年度の開催となる。

リーフレット案については、会議後に改めて委員の皆様へ御連絡をさせていただき、期日を決めて御意見をいただけるようお願いしたい。

・室原会長（名古屋大学）

承知した。

・堀田委員

自分が循環器病を経験しているのもあって、比較的循環器系の病気のことに関しては興味があるが、普段生活している中でなかなかこういった啓発資料だったりを目にすることがあまりないなと正直思うところがある。リーフレット作成とかもそうだが、資料の配布先を見ても予防の対象者だったり 40 歳代、50 歳代ぐらいに届くようにはなっていないと思った。

30 歳代、40 歳代、50 歳代が普段接する情報媒体が色々ある中で、広く啓発が届くように考えられるといい。リーフレットを見ると、高齢者向きであったり、よっぽど自分が関わってるのであれば興味あるかもしれないが、そういう興味がない方にアプローチができるように何か工夫をしていただければと感じた。

・室原会長（名古屋大学）

先ほどのあいち健康プラスのアプリもあまり存じ上げなかったのも、堀田委員と同じ感覚を持っている。せつかく第 2 期の計画の最初に大村知事のあいさつなどがあるので、できれば定例の記者会見等でこういうのを案内していただくことは可能か。

・事務局

周知のやり方はまた考えさせていただければと思う。県でもなかなか届けたいところにうまく届かないというジレンマを持っている。アプリのお知らせ機能を使用して健康への意識の促しをしているが、対象が限定的であることが課題である。また、愛知県では包括協定を結んでいる保険会社がいくつもあり、そういった保険会社の職員が外回りをされる際に、各企業にこういった啓発物を配布していただき、共に循環器病予防等の啓発をしていきたいという話もあるので、こういった機会も捉えて進めていきたい。

・間瀬委員（名古屋市立大学）

今の周知のことだが、QR コードを掲載すると、スマホで読み込んでいただける。リーフレットもそうだが、例えば「愛知県から循環器病のお知らせ」としてぜひ読んでねとかキャッチフレーズを作って QR コードをいろいろなところで読み取れるようにできるといい。

例えば、皆さん通勤中にスマホを見ている人も多いので、駅とか地下鉄とかに QR コードを掲載した広告を置けると情報を届けられる。目を引くようなフレーズと一緒に QR コード読み取れるようにすると、何がそこに書いてあるのかなと興味を持ってリーフレットを読んでもらえるのではないかな。いろいろなパターンとして例えば毎月に変えるとか、広告を 2、3 個並べるなどはいかがか。

- ・室原会長（名古屋大学）

大変素晴らしいアイデアと思う。それに関連して、リーフレットの PDF 版を公開してぜひどなたでも見られるようにしていただけるよう、事務局の方よろしく願います。

予定している議題は以上。円滑な進行に御協力いただき感謝する。

- ・事務局

本日、様々意見をいただいたので関係課とも調整を図りながら進めてまいりたい。

また、リーフレットの案については、改めて皆様にメールで御意見をいただいた上で、事務局の方で整理させていただく。最終的には室原会長（名古屋大学）に御相談しながら完成をさせていただければと思っているが、よろしいか。

（→会場異議なし）

本日の会議の議事概要について、後日、県の Web ページ上の掲載を予定している。議事録をまとめ次第、委員の皆様に発言内容の確認をお願いしたいと思うので、御協力をお願いしたい。

- ・室原会長（名古屋大学）

承知した。リーフレットの完成はいつ頃を想定されているか？

- ・事務局

内容の完成については 2025 年 3 月中を目標としており、12 月中には概ねリーフレット案を固めたい。

- ・室原会長（名古屋大学）

承知した。

- ・事務局

それでは、これで 2024 年度愛知県循環器病対策推進協議会を終了とする。